

～印象記～

第2回の研修会では、京都大学の建内宏重先生をお迎えし「姿勢・姿勢制御と運動器理学療法」をテーマにご講義頂きました。

当日は、台風の影響から天候が心配されていましたが、研修会場が満員になる程の盛況ぶりでした。

理学療法士にとって、姿勢制御というテーマは身近であり臨床場面において治療を選択する上で、難渋するケースが多い問題かと思えます。講義の前半では、姿勢・姿勢制御について、病理運動学的モデル・運動病理学的モデルを中心に、姿勢を観察、評価する上で必要な視点や考察方法を中心に講義して頂きました。姿勢制御に必要な要素を「バイオメカニカルな拘束」「運動戦略」「感覚戦略」「空間における姿勢」「動的なコントロール」「認知処理」の6つに分類し、まず、脊柱のアライメント変化について Kendall の分類や建内先生の研究結果も踏まえ、加齢による様々なパターンや代償姿勢を示して頂きました。

後半では、「運動連鎖と姿勢制御」をテーマに運動連鎖の基礎から講義して頂きました。身体の回旋動作では骨盤前傾位、後傾位とも胸郭、骨盤、脊柱の回旋可動域が低下することや重心移動量では、骨盤前傾位での回旋では後方重心移動量が小さくなるが、側方重心移動量とも小さくなる。このことから、骨盤の矢状面アライメントは胸郭、骨盤、脊柱回旋可動域および身体重心移動量に影響を与えることなどお示し頂きました。また、運動器の機能障害は、関節構成体や関節周囲の軟部組織に対する不適切な力学的ストレスが問題の根元となることが多い。特に、脊柱や下肢関節の機能障害においては、荷重位での姿勢やその制御方法が直接的に関節周囲組織の負担に反映され障害に繋がる。したがって、関節局所の機能解剖と全身的な姿勢および、姿勢制御とを考え合わせて障害像を紐解く事が重要となるとご教授頂きました。講義終了後は、質問が殺到して長蛇の列が出来ていました。新たな思考、視点で患者、利用者向き合い治療目標を明確にし、喜びや達成感を共有していけたらと私自身も感じさせられました。

今後も奈良県理学療法士協会研修部では、少しでも興味を持っていただける内容を研修部一同で取り組んでいきたいと思っておりますので、宜しく願いいたします。最後になりましたが、大変お忙しい中ご講義を快諾頂きました建内先生に、深謝致します。（研修部 中川大樹）

